

9月 定例会

19議案を可決、認定

決算審査特別委員会

決算審査特別委員会に付託された議案を、全議員で審議しました。議案は、平成29年度富士見町一般会計のほか、四つの特別会計、二つの事業会計の歳入歳出決算の認定です。審査は3日にわたり、担当課ごとに、課長・係長の出席を受け、該当分野について主として成果説明書をもとに説明を受け、慎重に審査しました。

○**消防課** 昨年は団員交代の時期であり、66名退職に伴う消防団員退職者報奨金約1800万円が発生しました。その他消防団装備更新、消防団員報酬、広域本部費負担金などが主なものです。消防無線従事者の資格、火災損害の内容などについて質疑がありました。

○**会計室** 質疑では、決算書は会計室が所管するが、予算書は財務課が所管するということでした。

○**産業課** 農林水産業費では、松くい虫対策について質疑がありました。商工費では、商工業振興、デマンド交通すざらん号、観光振興等について説明。インバウンド事業、デマンド交通、特産品開発などについて質疑がありました。

○**総務課** 人事について、人事異動、時間外勤務時間数の状況、人事考課などについて説明があり、人事考課、再任用制度について質疑がありました。防災ガイドブックの更新、町総合防災訓練などの説明があり、ウエザーニュース、準区民の防災対策について質疑がありました。庁舎維持管理は今まで総額3億3100万円、うち屋根修繕は920万円。昨年はエレベーターリニューアル工事、トイレ洗浄便座取り換え工事などを行いました。ふるさと未来寄付金は1億4千万円強の寄付を受け、1億円を希望される利用目的に応じた事業に充当。残金は基

○**議会・選挙管理委員会事務局・監査** 議会の開催状況で、傍聴者が前年比29人増ということでした。昨年は町長選挙、衆議院選挙があり、内容の説明がありました。

○**子ども課** 児童福祉費では、町単ひとり親世帯等児童激励事業対象児童128人、認可外保育所すざらん11人、森のいえぼっち22人、病児・病後児保育事業利用者265人などでした。保育所費では総計394人の保育をしました。

○**生涯学習課** 博物館事業では、企画展を6回開き、入館者は前年比17.5%増でした。図書館事業では、平成28年度町民一人当たり個人貸出冊数は15.1冊で、20年連続日本一でした。入館者は前年比99.0%、貸出数は前年比101.9%です。井戸尻考古館の入館者はここ数年横ばいです。社会体育では、ゆとりろ、中学生海外派遣事業、図書館のインターネット利用状況、図書館職員正規・非正規の状況、博物館の企画展、遺跡調査などについて質疑がありました。

教育費関係では、教育の町推進事業、学校施設の整備として富士見小高架水槽撤去、境小のトイレを洋式化したこと、要保護等就学援助費の対象は小学生70人、中学生42人、特別支援学級対象者は小学生33人、中学生21人でした。奨学金費支給は16件でした。ひとり親世帯児童激励金事業、森のいえぼっちへの補助金、長時間保育事業、小中学校の給食業務委託で地元食材の使用などについて質疑がありました。

○**財務課** 歳入総額76億8223万円は前年比2.5%増、主要因は、前年度繰越金及び都市計画道路施工に伴う財産売却収入の増額などによるものです。歳出総額72億1134万円は前年比3.6%増で、増額主要因は、ふるさとみらい寄付金お礼の品、福祉センター1改修、ゆめの森多目的広場整備費などによるものです。町債の発行約3.4億円、償還約6億円で、地方債合計約58億円、基金の取り崩し約1億6千万円、積み増し約4億2千万円で、基金合計約36億円です。町税徴収率は99.5%、前年比0.2%増でした。法人町民税調定額は前年比27.3%減。大手企業の会計処理などにより法人税割額が大幅に減少しました。固定資産税は企業の設備投資や大規模太陽光発電所の建設などにより前年比4.1%増。税務総務費について、当初予算に対して補正予算が大きかった点について質疑がありました。

○**住民福祉課** 有償福祉輸送補助事業、介護相談員、特養への入所枠、富士見高原病院への補助金の基準などについて質疑がありました。

○**建設課** 災害復旧費では、台風21号による被害対策の説明がありました。生ごみの堆肥化、不法投棄、ため池の耐震化、橋梁維持費の執行率の低さについての質疑がありました。